

地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	一般社団法人リバーバンク
役職	
氏名	鈴木秀典
着任日	令和5年10月1日

活動月	令和8年1月(着任2年4ヶ月)
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ハイカツthink vol.3 ・西粟倉、西脇視察 ・賀詞懇談会準備 ・二日市準備

・ハイカツthink vol.3

今回で3回目となったハイカツ think kagoshima。

今回はリバーバンクの運営しているタノカミステーションを会場に、廃校活用に日々向き合っている団体や、これから向き合っていく団体、興味を持っている参加者の皆さんが集まり、議論を交わした。

リバーバンク元代表の坂口さんによる立ち上げから、地域の枠組みの話、経済主義、社会主義、自然主義という概念的な話がありながら、新しく新留小学校を廃校活用して取り組もうとされている古川さんの話からは、再定義という言葉がとても強く響いた。廃校という言葉が最後の方は全然出なくなるくらい、枠組みとしては廃校ではありながらも、今本当に向き合わなければいけない社会に対しての話が多く、参加者の皆さんにも自分ごとのように感じていただける集まりになった。



・西粟倉視察

○耕作放棄地活用

中学時代の友人が過疎地域での耕作放棄地活用に取り組んでおり、状況を確認しに西粟倉へ訪問した。

人口1300人の村の30世帯程度の集落で起きている新しい取り組みで、耕作放棄地の田んぼを活用し、鶏舎をたて養鶏に取り組んでいる。大規模な米づくりには不向きな棚田に平飼いの卵を育てることで、軽作業による雇用の創出と、ブランディングを目指して活動していた。この取り組みは今後も定点観測することで、過疎地域での耕作放棄地活用の1つの手法として確立されるのではないかと考える。



地域おこし協力隊活動報告書

○庁舎、BASE101

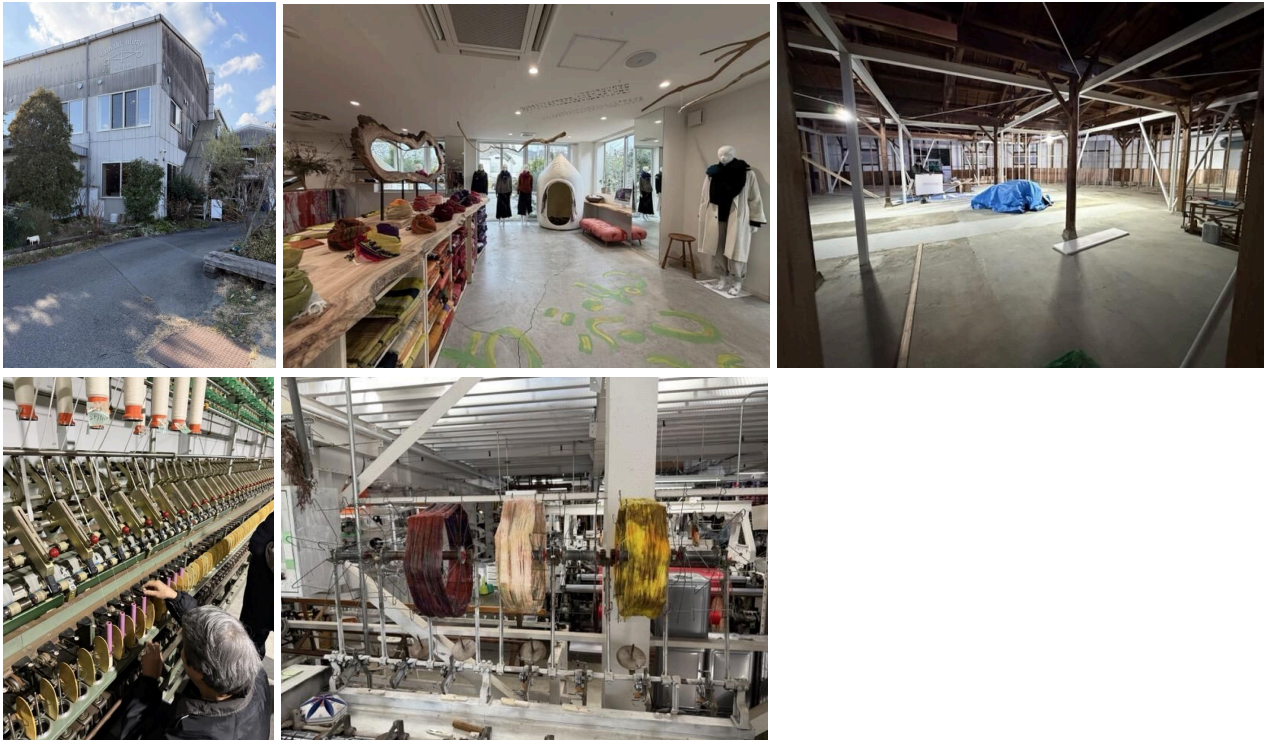
南九州市が向き合っている統合庁舎問題の先進事例として、西粟倉の庁舎の使われ方を案内してもらった。地元産材の木材を活用するために、木の長さを短い材で組み合わせて建物の至ることをの意匠に現れており、設計者の努力がとて垣間見える建物となっていた。使われていない時の議場を解放して、村民皆で使える場所にしていたり、公共的な場所がとて解放的に利用できる仕組みが至る所に散りばめられていた。木材の製材所かつカフェになっているBASE101も視察した。エーゼロが地域課題に取り組み、現状うまくいっていない部分などもヒアリングすることができたのは、とてもいい体験となった。



・西脇視察

○伝統工芸、播州織の活性化

伝統工芸の播州織が年々衰退方向にある兵庫県西脇市も視察に伺った。川辺仏壇と同じく分業制によって成り立っていた播州織は、年毎に衰退を続け、新しい体制として一貫して織物を作ることができるようにチャレンジを続けているtamaki niimeの工場を視察した。デザインによって届けられる力をとても感じる視察となった。今後も継続して関係していきたい。



地域おこし協力隊活動報告書

○西脇市のまちづくり

人口37,000人と、南九州市とほとんど変わらない人口数で、消滅可能性自治体としても名前が上がり、市の伝統工芸の衰退を感じている西脇市。播州織をPRするための播州織工房館も閉鎖、今後の方向性を示さなければいけない状況下で取り組んでいることを視察してきた。

横尾忠則さんの生まれ故郷で、アートとしてまちづくりを考えていたり、ファッション都市構想を打ち出したりと、市としての方向を検討している様子が南九州市の文脈と近い部分を感じた。



・賀詞懇談会準備

南九州市の新年のイベントでもあり、市の様々な方が集まるイベントである賀詞懇談会。

青年部の活動として会場の準備を行った。

地域の行事を陰で支えていく青年部の活動は、貢献している感覚がとても強く感じられるので、協力隊員は必須で参加していくべきだと感じた。



・二日市準備

二日市のメインとなる茅の輪の材料である茅を集めに行くという、普段では経験できない活動も行った。

同じく青年部の活動として参加しているが、二日市には今年参加できないので、素敵な茅の輪となって川辺の中心でみなさんを出迎え、フォトスポットとなることを期待している。

